

㊟ 嚴王品

前世での約束

妙莊嚴王、浄徳夫人、息子の浄蔵・浄眼の4人は、前世では仲の良い同志で、3人が仏道を全うするため、1人が生活を支えるのに専念した。結果、生活を支えたひとりとは妙莊嚴王となり、仏道を全うできた3人は約束によって、邪見に迷う父を折伏した。

||

創価学会員にも、このような多くの事例が見られる
(際しが先に入信して父を折伏するなど)

六凡と四聖

六凡(六道)は人間の基本的な欲求であり、生活の基盤をなすもの(妙莊嚴王にあたる)。四聖のみの人などあり得ない。
「六道の衆生は皆是我が父母」とは、六凡が生命活動の基盤であるとの意味。